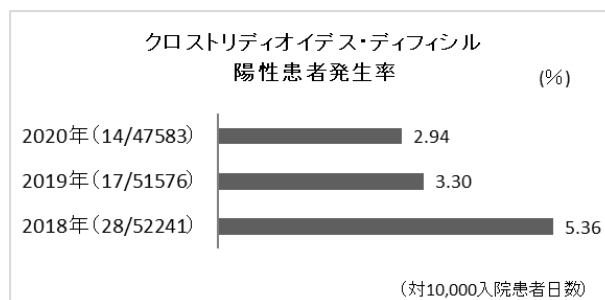
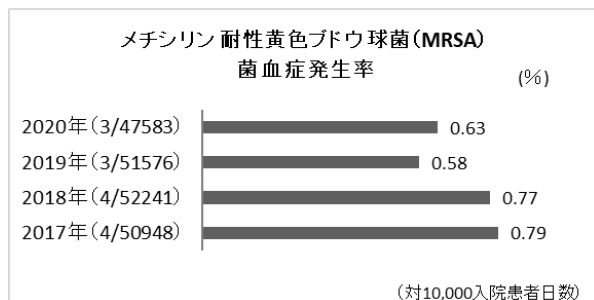


感染対策室統計

1) 抗菌薬の適正使用と微生物検査結果の活用を推進

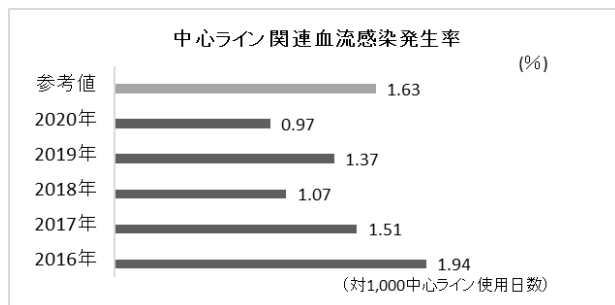
カルバペネム系抗菌薬は AUD と DOT（抗菌薬使用日数）を利用した AUD/DOT を算出、比較値から当院は 1 患者あたりの使用量が低い傾向が明らかとなり、増量等が必要な場合は介入をしている。血液培養の陽性率および汚染率がやや高い傾向にあり、広域抗菌薬使用時の培養検体提出と感受性パターンに基づいた適正使用を推進している。

MRSA 菌血症発生率およびクロストリディオイデス・ディフィシル陽性患者発生率を低率に保つために、予防策として接触予防策を実施するとともに、手指衛生と環境衛生に取り組んでいる。



2) 医療関連感染発生状況の把握と介入

手術部位感染、中心ライン関連血流感染、膀胱留置カテーテル関連尿路感染について、それぞれ発生率の把握と当該部署への結果の還元、対策の検討を行っている。2019年以降中心ライン挿入バンドルの導入と日常的な管理方法を見直し、中心ライン関連血流感染は減少している。



3) 新興感染症への柔軟な対応

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、確実性の高い迅速な対応を求められた。エントランスでのトリアージ、ドライブスルー方式の発熱外来を開設、院内のゾーニングを図ることで導線の区分けを徹底し、汚染を拡散させない対策を実践している。加えて、手指衛生の実施率の向上、高頻度接触面の環境整備の実施、個人防護具の適正使用など、日常的な標準予防策の遵守に取り組んでいる。

